

2010 年 5 月 28 日（金）日本国・東京都
日本女子大学目白キャンパス新泉山館大会議室

形容詞型接尾語「～にくい」「～づらい」の動向 ——プロ野球の実況中継の例——

台湾・南台科技大學 ^{かんさくしんいち} 神作晋一
kanshin2005@miracle.ocn.ne.jp

1. はじめに

01 この場面では、変化球を投げ **【にくい／づらい】** ですね。（作例）

形容詞型接尾語「～にくい」「～づらい」は、動詞の連用形（ます形）に接続し、複合語の後項要素として働き、その動作の困難さ等を表すようになったものである。ちなみに日本語能力試験の出題基準²では、関連する「～がたい」や反意語「～やすい」とともに2級の語彙リストに入っている。

歴史的には「～にくい」が先³で、規範意識⁴としても「～にくい」にあると思われるが、実際には「～づらい」も多く見えている。また近世～近代語の調査⁵では、「～づらい」の使用が「会話文」→「地の文」に波及し、上方語から来ているということが指摘されている。その他、意志動詞・無意志動詞などの観点からの分析があるが、まだ調査・分析の余地があるのが現状である。

発表者はかつて、「～にくい」「～づらい」について「スポーツ紙の website」から用例を調査・分析・考察し、神作晋一（2006）にまとめたことがある。

その際、スポーツ紙ということから、必然的にプロ野球関連の記事からの例が多くなり、また「～づらい」の例が意外に多かったということもあった。スポーツ紙の記事は記者自身の意識による語の選択もあるが、取材やインタビューを通じた関係者の発言などの反映などもあろう。つまり、プロ野球関係者の使っている言葉（特に話し言葉）の影響もあると考えられるということである。

そこで、本発表では、**用例 01** のような接尾語「～にくい」「～づらい」について、プロ野球実況中継の例を取り上げ、①プロ野球中継の例に特徴があるか②先行研究等で述べられていることと相違があるかなどの観点を入れ、調査・分析・考察することを目的とする。

なお、「～にくい」「～づらい」はそれぞれ「にくい」「にくく」「にくさ」、「づらい」「づらく」「づらさ」等のバリエーションがあるが、特に注記する以外は、すべてのバリエーションを包含して「～にくい」「～づらい」とする。

2. 先行研究

2.1. 「～づらい」への違和感・抵抗感

「～にくい」「～づらい」の2つの語について、たとえば山田俊雄（1999）⁶では、本来この種の言い方は、「読みにくい」「見にくい」などのはずであり、「読みづらい」「見づらい」などの言い方かなりの違和感を覚えていると述べている。これとおなじような意見としては、国広哲弥（2010）⁷に「ふつうは「しにくい」を使っていて、特に必要を感じたときに「しづらい」を使うという世間とは真反対な習慣を持っているので困るわけである。」という記述があり、山田氏、国広氏とも言語の変化というのは認めながらも、「～づらい」への違和感・抵抗感が見える。

2.2. 「～にくい」「～づらい」と「～がたい」の使い分け

前項の山田氏や国広氏の論考では、「～にくい」が受け持つ領域に、後発の「～づらい」が侵食し

てきているとなっている。しかし、その進出・侵食はまったくの恣意的なものなのだろうか。

森田良行 (1996) 8)では、「～にくい」「～づらい」を中心とした語彙群についての分析を論じている。「～にくい」は、意志動詞にも無意志動詞にも付き、困難な動作の原因は対象にあるが、「～づらい」は意志動詞に付き、困難な動作の原因は主体にあるかで違いがあるとしている。この「困難さの原因」については、飛田良文・浅田秀子 (1991) 9)でも同じ様に説明している。

三上望 (2004) では、「～にくい」は「経験者以外のことが原因で引き起こされる受動的苦痛・困難を表す」とし、「～づらい」を「経験者自身のことが原因で引き起こされる能動的苦痛・困難をあらわす」としている。そして「～づらい」が、一部の非対格動詞とは結合できないことを指摘し、自動詞の主語名詞句が自発的に出現・作用する特質 (内在的コントロール) をもつ場合に、「～づらい」と共起できることを示し、その理由を自発、否定、可能の連続性と「～づらい」の語源の意味から説明している。

黄其正 (2004) は、現代日本語の接尾辞について、理論から各論まで詳細にまとめられているが、形容詞型接尾辞でおなじ語彙概念構造10)を持つものとして「～にくい」「～づらい」「～がたい」を取り上げている。そして「困難さ」を「状況レベルの困難さ」(事物の性質・属性)と「認知レベルの困難さ」(言語主体の視点・認知)に分け、前者は「～にくい」でしか表現できないが、後者は三者が入れ替え可能であり、後者の困難さの原因は、接辞のつく動詞の動作主自身にあるというのが適当であると述べている。

以上、これまで述べた先行研究の事柄をまとめてみると、表1のようなになる。

表1 「～にくい」「～づらい」「～がたい」の使い分け

語彙的側面			文脈的側面		
形容詞の連用形に 接続	意志動詞	無意志動詞・自然現象	状況レベルの困難さ ／事物の性質・無 意志性	認知レベルの困難さ	実現の困難さ
				困難さの原因	
「～にくい」	○	○	○	対象・経験者の外側	×
「～づらい」	○	×	×	主体・経験者 (動詞の動作主)	×
「～がたい」	○	×	×	対象・経験者の外側	○

ただし、やはり全体としては「～にくい」の持つ範囲は広く、あらゆる状況において用例が認められる一方で、「～づらい」が、「意志動詞」・「主体に原因を持つ」という性質を主として持つために、相対的に「客観性」が浮き彫りになるという点を押えておきたい。そして、どちらでも使える (置き換え可能) な場合、「～にくい」「～づらい」が選ばれやすい理由があるのだろうかという問題もある。

以上を踏まえた上で、実際の用例について分析してゆくこととする。

3. 調査対象・手順

3.1. 調査対象と考え方

野球というスポーツは、ピッチャーがボールを1球投げたたびに合間が入るものである。バ

表2 2004年プロ野球日本シリーズ
中日ドラゴンズvs西武ライオンズ

第1戦	20041016	中日ドラゴンズvs西武ライオンズ	ナゴヤドーム (TBS)
第2戦	20041017	中日ドラゴンズvs西武ライオンズ	ナゴヤドーム (フジテレビ)
第3戦	20041019	西武ライオンズvs中日ドラゴンズ	西武ドーム (テレビ朝日)
第4戦	20041021	西武ライオンズvs中日ドラゴンズ	西武ドーム (テレビ朝日)
第5戦	20041022	西武ライオンズvs中日ドラゴンズ	西武ドーム (TBS)
第6戦	20041024	中日ドラゴンズvs西武ライオンズ	ナゴヤドーム (フジテレビ)
第7戦	20041025	中日ドラゴンズvs西武ライオンズ	ナゴヤドーム (TBS)

ッターがフェアグラウンドに打てばプレーが動くが、それ以外はまた次の投球までに時間ができる。その間、両軍ベンチやバッテリー間でサインの交換などがある。つまり、選手がボールをめぐる動いている時間よりも、動いていない時間のほうが多いということである。

そして、プロ野球中継の場合、目の前のプレーを実況していくというだけでなく、選手や首脳陣などの心理とともに、ある一つのプレーや一連の動作などを分析的に述べたり、配球や試合の采配などを予想したりしながら進めていくということになる。

以上を踏まえ、今回の調査では表 2 の資料（2004 年日本シリーズ）を対象とした。これらを選んだのは、同一の話題を扱っていること、日本シリーズのような大きな試合ではサイン交換も多くなり必然的に試合時間も長くなることから、より多くの例を拾いやすいという理由があるからである。

それぞれのテレビ中継を DVD レコーダーで録画したものを、中継開始から終了まで（CM は除く）を対象として用例を拾った。決して多いとはいえないが、まずは、この 7 試合をもって考察の対象としたい。

3.2. 手順

①3.1. の資料から、次の語を検索・抽出する。

「～にくい」「～づらい」「～がたい」「～やすい」の各語とその前後の文脈。

②前後の語について分類する。

①上接語

活用の種類別・動詞の対象（主語や目的語）

②下接語下接語「～にくい」「～づらい」「～がたい」「～やすい」 表 7

- | | |
|-------------------------|--------------------|
| 1. 形容詞連用形とバリエーション | 例：～にくくなる、～づらくする |
| 2. そのまま終止するものとそのバリエーション | 例：～にくい。～にくい。」 |
| 3. 引用になるものとそのバリエーション | 例：～にくいと思う、～づらいという |
| 4. 後ろに名詞が付く（名詞を修飾） | 例：～にくい状態 ～づらいこと |
| 5. 「です」、「んです」とそのバリエーション | 例：～にくいですね ～づらいんですよ |
| 6. 接続助詞「し」など | 例：～にくいし～、～づらいし |
| 7. その他助詞・助動詞が接続するもの | 例：～にくいなあ、～づらいね |

4. 調査結果・分析・考察

4.1. 概況

ここでは、これまで述べてきた手順によって得られたプロ野球中継の例を紹介したい。表 3 は今回調査した 7 試合分の各語の出現状況である。試合ごとに用例の出方が異なるのは、試合展開や中継関係者の話しの仕方などが反映されているということであろう。

該当語の出現状況については、「～にくい」と「～づらい」の出現数はほぼ同じか、むしろ「～づらい」の方が上回っている。そして「～がたい」の例は 1 例のみであった。

また、表 4 は形式（活用）のバリエーションである。やはり「～にくい…」 「～づらい…」 の形が一番多いが、いわゆる形容詞の連用形「～く…」 の形もいくつか見られた。「～さ」の例はなかった。

表3 試合ごとの出現数

	中継局	にくい	づらい	がたい	やすい
第1戦	TBS	0	2	0	1
第2戦	フジ	7	3	0	2
第3戦	テレ朝	5	7	1	15
第4戦	テレ朝	1	4	0	4
第5戦	TBS	5	4	0	3
第6戦	フジ	1	2	0	3
第7戦	TBS	1	1	0	0
		20	23	1	28

表4 形式のバリエーション

	～く、 かった	～い	～さ
にくい	2	18	0
づらい	6	17	0
がたい	1	0	0
やすい	5	23	0

4.2. 上接語

表5は「～にくい」「～づらい」のほか、「～がたい」「～やすい」も含め、上接語の動詞別によって分類したものである。今回の主となる調査対象は「～にくい」「～づらい」であるが、「～やすい」にしか出てこなかった動詞の用例も枠を作って示してある。

また、紙面の関係その他で、すべてを載せることはできなかったが、主要なものについて上接語の動詞の主語や目的語を示しておいた。

これを見ると、野球の基本動作である「投げる」「打つ」の例が多かった。

また、「投げる」「打つ」の他「行く」「見る」も「～にくい」「～づらい」両方に用例が存在している。逆に上記の4例以外はどこかにしか出ていないなど、散らばっている。

では、両方に出てくる例というのは何か違いがあるだろうか。

そこで改めて、表6で上接語の動詞別に共通部分と相違部分を示してみた。

表5 上接語の動詞別一覧表

活用	上接語	主な対象(主語や目的語)	にくい	づらい	がたい	やすい
サ変	する		2	1	1	5
一段	いためる	内殿筋				1
	おさえる	打者				1
	かける	エンドラン		1		
	かんがえる	完投すること	1			
	せめる	攻撃				1
	でる	ホームラン	1			2
	とらえる	ボール		1		
	なげる	ボール・投球	5	6		4
	みる	欠点・ボール	2	1		
	四段	いく	速いボール	1	1	
うごかす		采配				1
うごく		腕	1			1
うつ		ボール	4	2		
おう		点差				1
きく		場内の音		1		
きる		スタート		2		
しぼる		狙い球		1		
だす		カ・フォアボール		2		2
つかう		中継ぎピッチャー		3		2
つながる		得点				1
ねらう		ボール	1			
むすびつく		得点				1
やる	投球(プレー)	1			3	
よむ	配球				1	
わかる	球種		1			
その他	てもらう	心情	1			
	られる					1
総計			20	23	1	28

表6 「～にくい」と「～づらい」 共通部分と相違

	「～にくい」		「～づらい」	
	こちらにしかないもの	共通するもの	共通するもの	こちらにしかないもの
	かんがえる(1)／でる(1) ／動く(1)／ねらう(1)／やる(1)／てもらう(1)	見る(2) ／行く(1)／ 打つ(4) ／投げる(5)	見る(1)／行く(1)／打つ(2)／ 投げる(6)	かける(1)／とらえる(1)／聞く(1)／切る(2)／絞る(2)／出す(2)／使う(3)／

※なお、太字で下線は互いとくらべて多いものを表している。

たとえば、「投げ {にくい／づらい}」の例は以下のようにになっている。

- 02 2-7B-4・2-7B-5「投げにくい、投げにくい星野。星野も6年目。」(森脇)
- 03 3-4B-3「チェンジアップ投げにくい状態のままストレート勝負行きましたよね。」(西村)
- 04 5-8A-1「ただ、このケースはもう、ピッチャーの方が投げにくいですからね。先日のこともありますから。(衣笠)
- 05 6-8B-1「ストレートをヒット2本打たれて、チェンジアップをあわやホームランかというような当たりをされてますからね。非常に松坂としては投げにくいと思いますよ。はい。」(平松)
- 06 3-7B-1「これで明日、あさってと、岡本ちょっと投げづらくなりましたからね。」(仰木)
- 07 4-5A-1「そうしたらこれ、変化球は投げづらいんですか。」(中山)
- 08 5-8B-1「さすがに、牛島さん、ここは変化球は投げづらいですかね。」(松下)
- 09 5-8B-2「ただ、遅れてファールしてますから。変化球投げづらいですよ。」(牛島)
- 10 6-2A-1「ピッチャーにはよく投げづらいというが、ちょっと松坂に対しては、「バッター松坂」を警戒か。(斎藤誠征)
- 11 6-6B-2「この声援ってのはものすごく投げづらいんですよ。」(平松)

「変化球」のような具体的な場合(03,07,08,09)と、投球することそのものの場合(02,04,05,06,10,11)がある。

また、05と11のような同じ話者（平松）でしかも「～にくい」「～づらい」が出ることもある。ともにピッチャーは西武の松坂という場面だが、05の場合は相手が松坂の球種に対応しているということ、11はナゴヤドームの（中日への）声援が大きくて、ピッチャーにとってはプレッシャーがかかるというような場面である。困難の要因はどちらも外であるが、よりピッチャーの心理に関わるという点で11は「～づらい」としたのであろうか。

4.3. 下接語

表7は「～にくい」「～づらい」「～がたい」「～やすい」の下接語について、性質別に分類したものである。（なお1～7の数字は表作成時に並べ替えをするための便宜上のものである。）

まず、形容詞連用形「～く」の例は「～づらくなる」の例が多かった。これは第3戦に連続して出ている。

12 3-8A-1 栗山:西武とするとね、やっぱりあのう、(中日の)岡本で逆につかいつらくなったように、このね、小野寺だけは、ピシャッと行ってほしいというね、ものすごく願っていると思いますよ。

そして、「～い」の方では、大体同じような傾向を示している。13,14のように名詞を修飾する例や、

13 4-4B-2「一歩目のスタートが非常に切りづらい状態になってますね。(大塚)」

14 3-4B-3「チェンジアップ投げにくい状態のまんまストレート勝負行きましたよね。(西村)」

あるいは、15,16のように「～です」「～のです」のつく例もある。

15 5-8A-1「ただ、このケースはもう、ピッチャーの方が投げにくいですからね。」(衣笠)

16 4-5A-1「そうしたらこれ、変化球は投げづらいんですか。」(中山)

しかし、その中で違いを見ようとすれば、まず「～づらい」の方に引用の形式「～という」がある。

17 1-8A-1 小松:(略)このカブレラってね。あんまり穴がね、ないですよ。／久野:落合監督もね、なかなか欠点が見づらいついていうね、そんな発言もありました。

その他にも、18,19のような例がある。

18 1-5A-1、角上「石嶺バッティングコーチはね、今日の石井、(中略)ほんと、しぼりづらいという話をしていましたね。」

19 6-2A-1、斎藤「ピッチャーにはよく投げづらいというが、ちょっと松坂に対しては、「バッター松坂」を警戒か。」

これは、話者自身の意識というよりは、取材等での発言をそのまま引用したということではないだろうか。「～と思う」が続く以下の用例とは違っている。

20 2-4A-1「見にくいと思いますよ。(谷沢)／3-3A-1「打ちにくいと思うんですよね。」(西村)／6-8B-1「非常に松坂としては投げにくいと思いますよ。」(平松)／2-2A-1「一番打ちづらいと思いますね。」(斎藤雅樹)

その他では、終助詞がそのまま付く例(21,22)が「～にくい」の方だけに出現していた。

21 2-5A-1「ああ、右打ち、しにくいね。」(谷沢)／2-8A-1「その、予想はしにくいね。」(谷沢)

22 3-2B-1「ちょっと行きにくいなあって状態になってますね。」(西村)

下接する表現については、用例数のこともあるので、あまり大きな違いはないように見えるが、しいていえば、「～にくい」の方が下接語にバリエーションが多い傾向があるといえるかもしれない。

表7 下接語別の一覧

下接語	説明	にくい	づらい	がたい	やすい
1かった				1	
1くする	～にくく ～づらく ～やすく		1		
1くなる		1	5		1
1そうに		1			1
1て					2
1中止				1	1
2終止	そのまま終止	1			2
3という	引用になる			3	2
3と思う	場合	3	1		
4こと	後ろに名詞 がつく、名詞 を修飾する	1			
4ような					1
4形式名詞					1
4名詞修飾		3	3		5
4ので	1				
4準体の					2
5でしょう	～です、ん ですなど	2			
5です		2	5		5
5んです		2	4		4
6接助し	接続助詞し		1		1
7なあ	終助詞	1			
7ね		2			
総計		20	23	1	28

4.4. 個人差・地域差

ここまでは語彙そのものについて述べてきたが、話者の個人差という点では特徴があるだろうか。表8はそれぞれの語について話者別にまとめたものである。それぞれ、職種（アナウンサー、解説、ゲスト）と出身地を記してある。18歳以降の居住地や所属（進学や就職、プロ入り）などのことも考慮すべきではあるが、ひとまず出身地を最初の考慮とした。また、出身地については並べ替えの便宜のために1～4の数字をつけて並べ替えてみた。

これを見ると、少数例（3例以上）ながら「～にくい」専用 西村龍次、衣笠祥雄、谷沢健一など
「～づらい」専用 仰木彬、東尾修、中山貴雄など

という傾向がある。

両方に出ている話者というと牛島和彦があがるが、以下のような例である。

- 23 5-2A-1「この西口のような、えーピッチャーというのは打ちにくいでしょうね。」
- 24 5-9A-1「ストレートの力があって、上から投げ下ろしてくる、そのフォークボールに角度がつけばね、やっぱりバッター一打ちにくいでしょうね。」
- 25 7-7B-1「やっぱりこれだけ抑えているピッチャーって、相手がこう、打ちにくそうにしてるわけですからね。」
- 26 5-1A-1「1エンド2で、速い球行きづらいケースでね、チェンジアップ行っただんですけど、そこを狙ってきましてね、中日の方が。」
- 27 5-8B-2「ただ、遅れてファールしてますから。変化球投げづらいですよ。」

これを見ると、ピッチャーに対する客観的な評価（23、24）は「～にくい」で、ピッチャーの立場、心理を表しているとき（26、27）は「～づらい」といえるだろうか。

地域差については、たとえば仮に、東日本は「～にくい」、西日本（特に関西）は「～づらい」だとすると、やはり例外もある。

例えば、中山貴雄（テレビ朝日）は東京出身で大学も就職も東京であるが、プロ野球中継担当で、東尾修などから影響され「～づらい」が出るようになったということも考えられる。ちなみに、東尾の例は次の1例以外はすべて「～づらい」である。

- 28 3-3A-3「東尾:あまり、まじめにやりすぎると腕が動きにくいですよ。／中山:ああ、そういうもんなんです。」

4.5. その他

ここまで、上接語・下接語・話者別の傾向などを見てきたが、用例を検討する上で興味深い例がいくつかあったので示しておきたい。

4.5.1. やり取りの中で

用例 29,30 では松下（アナ）の「～づらいですかね」という問いかけに対して、解説者の牛島が「～づらいですよ」と同じ言い方で返している。相手の言い方に引きずられるということもあるのではないだろうか。

29,30 5-8B-1・5-8B-2
 松下:さすがに、牛島さん、ここは変化球は投げづらいですかね。
 牛島:うん、まあそうですね。でもね、あのう、ボールスリーから始まったやつですからね。考え方によったら、よしこれでまっすぐまっすぐで行けばっていう思いはあるんですけど、ただ、遅れてファールしてますから。変化球投げづらいですよ。

話者	職種	出身	にくい	づらい	がたい	やすい
斎藤雅樹	解説	1埼玉		1		
小宮山悟	ゲスト	1千葉	1			
谷沢健一	解説	1千葉	3			2
栗山英樹	解説	1東京	1	1	1	2
大矢明彦	解説	1東京				1
田淵幸一	解説	1東京				1
松下賢次	アナ	1東京		2		
中山貴雄	アナ	1東京		5		2
斎藤誠征	アナ	1栃木		1		
彦野利勝	解説	2愛知		1		
久野誠	アナ	2三重		1		
宮本慎也	ゲスト	3大阪	1	1		1
牛島和彦	解説	3大阪	3	2		2
衣笠祥雄	解説	3京都	3			1
東尾修	解説	3和歌山	1	2		10
金村義明	解説	3兵庫		1		
大塚光二	解説	3兵庫		1		
角上清司	アナ	3兵庫		1		
平松政次	解説	4岡山	1	1		2
森脇淳	アナ	4岡山	3			
西村龍次	解説	4広島	3			
仰木彬	ゲスト	4福岡		2		4
総計			20	23	1	28

「1東京近郊」「2中部地区」「3近畿」「4近畿以西の西日本」

4.5.2. 「～やすい」との関係

用例 30, 31 では話者の「しにくい」⇔「しやすい」の関係を感じさせる例である。ちなみに話者の谷沢健一はこれを含め3例とも「～にくい」だけである。

32 2-4A-1「見にくいと思いますよ。」

33 2-5A-1「ああ、右打ち、しにくいね。」

34 2-8A-1「予想はしにくいね」

4.5.3. 否定との関係

今回は「～にくい」「～づらい」「～がたい」（「～やすい」）を取り上げてきたが、実際には3つの選択というだけではなくて、否定表現を含めた選択ということも考慮に入れる必要があるかと思う。35の「出さない」と「出しづらい」、36の「聞こえる」⇒「聞きづらい（聞こえにくい?）」⇒「聞こえない」との関係も興味深いところである。

30,31 2-5A-1・2-5A-2

谷沢: 走者1塁で、4割9厘か。それだけやっぱり1, 2塁間狙って打つのがうまいってことだね。

森脇: そういうことですね。今も、気持ち多く一二塁間が開いています。つながらますといやな感じになる山本昌弘。

(西武・伊東監督の打つジェスチャーを見て)

谷沢: ああ、右打ち、しにくいね。あの、ひざ元の、ボール球って言うかな、そのへんに投げようと。

森脇: 意識はありますよね。

谷沢: ありますね。はい。

森脇: ご覧いただいておりますように、右方向の、センターから右が非常に多くなっています。

谷沢: ちよつと間違うとね、右打ちしやすい方になるからね。

斎藤: そうですね。

35 3-3A-6

東尾: それと、ほんとのこう、ランナーいないときのセットポジション投げるんですけど、ランナーいるときに若干、誰でも力みますよね。でもやはりボールが散らばるけど、まあ、フォアボールを出さないというか、出しづらくなって来ましたよね。

36 2-5A-3

森脇: 金村さん、またスタジアムのムードが変わっちゃいましたね。

金村: そうですね。西武の攻撃のときは静かに聞こえるんですよ。また中日の攻撃のときは本当に聞きづらいんですよ。それぐらいね、ものすごい熱気なんですよ。

森脇: はい。

5. まとめ

以上、本発表では、接尾語「～にくい」「～づらい」の動向について、プロ野球中継の例をもとに分析・考察してきた。その結果と見通しをまとめると次のようになる。

1. 「～にくい」と「～づらい」は、大体同じような数で現れているが、むしろ「～づらい」の方が多いと感じさせる。
2. 動作主体の外に困難な要因がある場合は「～にくい」、動作主体の心理等に要因がある場合は「～づらい」が使われる傾向がある。これは先行研究と同じ。
3. 下接語においては、若干ながら「～にくい」の方がバリエーションが多い。
4. 個人差や地域差は若干ながらある。他の話者との影響関係も考えられる。

紙幅の関係でふれられなかったものもあった。

用例に関しては、今回取り上げた7試合分の例でもそれなりに集まった。それでも、これも一つの傾向であって、さらに精度を上げるにはまた調査を増やす必要がある。

また、今回は「～やすい」との比較も入れたが、「困難」をあらわす「～にくい」「～づらい」「～がたい」だけでなく、4.5.3.でも少し取り上げた「否定」との関係も興味深いところである。

その他不十分だったものも含め今後の課題にしたい。

【主要参考文献】

- 神作晋一 (2006) 「形容詞型接尾語「～にくい」「～づらい」の動向——スポーツ紙のウェブサイトから——」『国語研究 (國學院大學)』69
- 国広哲弥 (2010) 『『しにくい』と『しづらい』』『本』 2010-2 講談社 p33-35
- 黄其正 (2004) 『現代日本語の接尾辞研究』 溪水社
- 国立国語研究所 (1972) 「動詞の意味・用法の記述的研究」(国立国語研究所報告 43)
- 白川博之 (2003) 『中上級を教える人のための日本語文法ハンドブック』スリーエーネットワーク
- 申鉉竣 (2003) 『近代日本語における可能表現の動向に関する研究』 絢文社
- 飛田良文・浅田秀子 (1991) 『現代形容詞用法辞典』 東京堂出版
- 松岡弘 (2000) 『初級を教える人のための日本語文法ハンドブック』スリーエーネットワーク
- 三上望 (2004) 「「～づらい」について—自発と否定、可能の連続性—」『日本語の分析と言語類型—柴谷方良教授還暦記念論文集—』 くろしお出版
- 森田良行 (1996) 『基礎日本語辞典』 角川書店
- 山田俊雄 (1999) 『ことば散策』(岩波新書) 岩波書店

¹ 「接尾語」「接尾辞」「形容詞」「補助用言」など、構成要素のとらえ方に関わる術語の問題はここではおいておく。

² 『日本語能力試験出題基準 改訂版』 凡人社 2002年

³ 『日本国語大辞典 第二版』では、「にくい」と「づらい」について

にく・い【難・悪】〔接尾〕文にく・し(形容詞ク活用型)形容詞「にくい」から生じた用法で、動詞の連用形に付き、その動作に抵抗を感じるさまを表わす。たやすくない。…しづらい。…がたい。「しにくい」「できにくい」「読みにくい」など。*竹取(9C末-10C初)「かぐや姫据ゑんには、例様には見にくし、との給ひて、うるはしき屋を作り給て」*宇津保(970-99頃)忠こそ「使ひにくしとて、人よりことに憎み給し下仕なん、よもきといひて、とどまりて、〈略〉つかうまつりける」*源氏(1001-14頃)桐壺「いと立ち離れにくき草のもとなり」*徒然草(1331頃)一八八「十まで成りぬれば、惜しく覚えて、多くまさらぬ石にはかへにくし」〈中略〉**辞書** 日葡
づら・い【辛】〔接尾〕(形容同型活用)文づら・し(形容詞ク活型活用)動詞の連用形に付いて、その動作をすることに困難を感じる意を表わす。「面目なくて行きづらい」「恥ずかしくて入りづらい」などのように、心理的抵抗が大きい意に使う場合もあり、「字が小さくて読みづらい」「反射して見づらい」などのように、物理的に困難である意を示すこともある。*滑稽本・浮世風呂(1809-13)二・上「ゑらふ聞づらいナ」*俳諧・温泉之記(1823か)「いきつらひ 行悪き事也」*青春(1905-06)〈小栗風葉〉春一二「自分で自分を卑しく為るやうな聞愁(ゾラ)い事を」となっている。

⁴ たとえば日本語教育関係のテキストでは、「～にくい」をまず教え、応用編として「～づらい」を教えるという傾向もある。たとえば、『初級を教える人のための日本語文法ハンドブック』では「～にくい」のみを掲出し、『中上級を教える人のための日本語文法ハンドブック』では、「～づらい」も併記している。

⁵ 申鉉竣(2003) pp188~192 『雑兵物語』や『浮世風呂』の上方女の台詞を紹介。

⁶ 「第4章 誤用・俗用・正用」に、「住みにくい・生きづらい」の見出しで掲げられている。

「×××づらい」が少数派であった時代が、ずっと続いていた筈で、最近の十年ほどで「×××にくい」をおしのけるように変わったものようである。

私はもはや七十半ばを過ぎた人間である。使う日本語が、もはや古いものであることは紛れもないことだが、「×××づらい」というのはどうも聞きにくい。」(152頁)

⁷ 「しにくい」《客観的な事情から何々することが難しい》／「しづらい」《主観的な何か心理的な抵抗があつて何々するのに困難を感じる》(p.35)

⁸ 「同じ意志動詞「飲む」でこの三語(引用者注、「～かねる」を含む)を使い分けると、「飲みにくい薬」は対象に原因があるので「～にくい」であり、「口内炎で、水さえ飲みづらい」は主体の肉体的理由から「～づらい」となる。(P.897)」

⁹ 行為に困難を感じる意味では「～づらい」は「～にくい」に似ているが、「～にくい」がやや客観的な困難さを暗示し、困難の原因は対象にあることが多いのに対して、「～づらい」は困難を感じている主体の存在を暗示する点が異なる。「全く同じ文脈で「～づらい」と「～にくい」が用いられると、次のようなニュアンスの違いを生ずる。」として以下の例文を示している。

この靴をはくと歩き <u>づらい</u> 。	(歩行が困難だ)
この靴をはくと歩き <u>にくい</u> 。	(靴が窮屈だ)
この小説は読み <u>づらい</u> 。	(文章が自分には難解だ)
この小説は読み <u>にくい</u> 。	(字が小さい)

(369頁)

¹⁰ ここでは LCS : [[語基] y BE AT [困難] z] のように規定されている。

¹¹ CM には「すべりにくい靴」という用例があった。

資料 用例集

（できるだけ前後の文脈を再現していますが、談話が重なる部分につきましては、正確には再現していないのでご了解願います。）

第1戦(TBS)

アナウンサー: 塩見啓一、久野誠(8回から)

解説: 田淵幸一、小松辰雄

ゲスト: 矢野輝広(阪神タイガース)

ドラゴンズサイドレポーター: 角上清司(CBC)

ライオンズサイドレポーター: 戸崎貴広(TBS)

第2戦(フジテレビ)

アナウンサー: 森脇淳、内田恭子(プレイヤーズゲスト席)

解説: 谷沢健一、斎藤雅樹、金村義明(ベンチ解説)、

ゲスト: 小宮山悟(千葉ロッテマリーンズ)

ゲスト: 宮本慎也(ヤクルトスワローズ)

第3戦(テレビ朝日)

アナウンサー: 中山貴雄

解説: 東尾修、栗山英樹、西村龍次(球種解説)、村田真一(配球解説)、大塚光二(グラウンド解説)

ゲスト: 仰木彬(オリックスバファローズ新監督)

古舘伊知郎(報道ステーションメインキャスター)

第4戦(テレビ朝日)

アナウンサー: 中山貴雄

解説: 東尾修、栗山英樹、西村龍次(球種解説)、村田真一(配球解説)、大塚光二(グラウンド解説)

ゲスト: 仰木彬(オリックスバファローズ新監督)

ゲスト: 宮本慎也(ヤクルトスワローズ)

第5戦(TBS)

アナウンサー: 松下賢次

解説: 衣笠祥雄、牛島和彦

ゲスト: 矢野輝広(阪神タイガース)

ドラゴンズサイドレポーター: 高田寛之(CBC)

ライオンズサイドレポーター: 林正浩(TBS)

第6戦(フジテレビ)

アナウンサー: 斎藤誠征、中村仁美(試合前のみ)

解説: 平松政次、大矢明彦、大久保博元(ネット裏解説)、

ゲスト: 金本知憲(阪神タイガース)

ゲスト: 岩隈久志(大阪近鉄バファローズ)

第7戦(TBS)

アナウンサー: 水分貴雄

解説: 牛島和彦、彦野利勝

ドラゴンズサイドレポーター: 角上清司(CBC)

ライオンズサイドレポーター: 初田啓介(TBS)

第戦目—何回、表はA・裏はB— チャプター 分数 回

|にくい

2-4A-1 23 1:39:39~1:39:55 4A

谷沢:ただ、これだけね、高く、こう、大上段に構えてますから、インサイドの低目ってのは死角なんですよ。

森脇:お、はい。

谷沢:あまり、こう、バッターとしては、中島としては、見にくいと思いますよ。今のコースはね。

2-5A-1・2-5A-2 28 2:02:00~2:02:44 5A

谷沢:走者1塁で、4割9厘か。それだけやっぱり1、2塁間狙って打つのがうまいってことだね。

森脇:そういうことですね。今も、気持ち多く一二塁間が開いています。つながれますといやな感じになる山本昌弘。

(西武・伊東監督の打つジェスチャーを見て)

谷沢:ああ、右打ち、しにくいね。あの、ひざ元の、ボール球って言うかな、そのへんに投げようと。

森脇:意識はありますよね。

谷沢:ありますね。はい。

森脇:ご覧いただいておりますように、右方向の、センターから右が非常に多くなっています。

谷沢:ちょっと間違うとね、右打ちしやすい方に変わるからね。

斎藤:そうですね。

2-7B-1 41 3:00:40~3:01:08 7B

内田:そういう意味でも、小宮山投手。

小宮山:はい。

内田:ここで、もう一度中日に踏ん張りを見せてもらいたいところですね。

小宮山:まあ、そう、ただ、松坂くんが、まあ、完投するというのは考えにくいので…、まあこのイニングもしくは次のイニング、どちらとしても、まあ、そこまでだと思っんですけど、最後の踏ん張りって感覚で来ますから。

内田:はい。

小宮山:より厳しくなると思いますね。中日としたら。

内田:そうですね。放送席はどうでしょうか。

2-7B-3 45 3:19:52~3:20:18 7B

森脇:マウンドには星野が登って、内野は前進守備。場内アナウンスで「ウェーブをやめてください」と告知されていますが、ほとんどそんな声も聞こえないほど大変な盛り上がりになってきました。このなかで投げる、斎藤さん、ピッチャーはなんとやりにくいとかか。

斎藤:そうですね。

森脇:ええ。代打高橋光信、バッターボックス。

2-7B-4 2-7B-5 46 3:24:20~3:24:30 7B

森脇:投げにくい、投げにくい星野。星野も6年目。

2-8A-1 48 3:33:30~3:33:45 8A

森脇:壮絶な展開。それだけに、谷沢さん。このまま終わる可能性も、どうなんだろうと。つい思ってしまうんですが。

谷沢:んー、しかしまだまだね。その、予想はしにくいね

森脇:そうですね。

谷沢:ね、展開になりそうですけどもね。ええ。

3-2B-1 11 0:46:59~0:47:18 2B

中山:西村さん。ピッチャーサイドから見ますと、ドミンゴ、今、村田(和田)に対する攻め、

西村:はい。

中山:どう見ました?

西村:あのう、えーナゴヤドームですごいホームラン打たれましたんで、あの、インコースの早いボール系ってのがちょっと行きにくいなあって状態になってますね。

中山:はい。

3-3A-1 12 0:53:40~0:53:56 3A

中山:西村さん、パームボールというのは、

西村:はい。

中山:何が特徴というんでしょうか。何が武器になってくるんでしょうか。

西村:あのう、タイミングが、まっすぐのような腕の振り、

中山:ええ。

西村:あのう、ボールが遅いと。で、打ちにくいと思うんですね。

中山:ええ。

3-3A-3 13 0:57:14~

東尾:どっかでこう、雑っていうか、そういった部分がないと、

中山:余裕と遊び心が必要ですか。

東尾:あまり、まじめにやりすぎると腕が動きにくいですよ。

中山:ああ、そういうもんなんですね。

3-4A-1 17 1:13:38~1:13:50 4A

栗山:ですから東尾さんが言われたとおりで、右バッターが外に左ピッチャーのボールってややシュート気味に行くはずなんで、踏み込みもうとすると内側に来てしまうってのは、なんかバッターすごく狙いにくくなってしまいますよね。

3-4B-3 23 1:39:21~1:39:39 4B

西村:あのう、ストライクとボールがちょっとはつきりしだしたんですよ。で、あのう、チェンジアップをゆうゆうと見逃されたんで、チェンジアップ投げにくい状態のままストレート勝負行きましたよね。それでカブレラがわかっていて、ストレート狙い撃ちですよ。

中山:ええ。

4-7A-1 42 3:07:20~3:07:42 7A

中山:それでも宮本さん。

宮本:はい。

中山:シーズン中はホームランが少なかった中日が今日8点。3本のホームランで奪ったりと、短期決戦ってのはわからないもんですね。点の取り方も。

宮本:あの、特にナゴヤドームってのは、あの一、なかなか球場も広いんでね。なかなかホームラン出にくいんですけれども、まあ、神宮だと、まあホームラン出たりしますんで。

中山:ああ、なるほど。

5-2A-1 9 0:39:39~0:39:57 2A

松下:ちょっと高めでしたけど、牛島さん、コース的にはいっぱいですかね。

牛島:そうでしょうね。コース的にやっぱりいっぱいだと思います。ツースリーというカウントでね、この西口のような、えーピッチャーというのは打ちにくいでしょうね。

松下:はい。

牛島:いろんな球種を投げてきますからね。

5-7A-1 34 2:30:29~2:30:50 7A

松下:まあ、シーズンゲームだったら、普段のゲームだったら6つはやってるケースがあるわけですよ。

衣笠:そうなんですよ。ほんとにこの試合一つしかないんですよ。日本中で。それが疲れるってなかなか理解してもらいにくいんですが、そういうところへこの終盤へ来てからの攻防が難しくなるんでね。

5-8A-1 42 3:04:52~3:05:01 8A

松下:今のは、(谷繁の)「狙ってもよかったかな」という顔ですか。

衣笠:そういう顔ですね。ただ、このケースはもう、ピッチャーの方が投げにくいですからね。先日のことありますから。

5-9A-1 48 3:30:56~3:31:13 9A

松下:ですから元々ストレートに力があつた。そしてフォークボールも安定してきた、ということだね。

牛島:そうですね。だからまあ、これだけ上背がありますからね。ストレートの力があって、上から投げ下ろしてくる、そのフォークボールに角度がつけばね、やっぱりバッター打ちにくいでしょうね。

5-9B-1 51 3:48:03~3:48:17 9B

衣笠:ただこのカブレラって打者はね、ほんとに難しいんですよ。普通ね、ここをこういうパターンで投げたら取れるってのが見えるんですけどね、見にくいバッターですよ。

6-8B-1 53 3:56:26~3:56:38 8B

平松:今日対戦は、ストレートをヒット2本打たれて、チェンジアップをあわやホームランかというような当たりをされていますからね。非常に松坂としては投げにくいと思いますよ。はい。

7-7B-1 43 3:11:02~3:11:17 7B

(6回無失点の石井貴を代えたことについて)

牛島:まあ、普通で行けば、水分さん、やっぱりこれだけ抑えているピッチャー(石井)って、相手(中日)がこう、打ちにくそうにしてるわけですからね。少しでもっていうね、ええ、インニング行ってほしいって思いあるじゃないですか。

づらい

1-5A-1 25 1:51:08~1:51:28 5B

角上:塩見さん。

塩見:はい。角上さん。

角上:ドラゴンズサイドです。ドラゴンズのバッター陣、苦しんでいますね。あのう、石嶺バッティングコーチはね、今日の石井についてね、意図的にね、ボールを散らしているのかどうかわからないんだけど、ほんと、しぼりづらいという話をしていましたね。

塩見:ええ。

角上:ですから、バッターはあの、普段どおり、シーズン通り、積極的に行けば、活路は見出せるんじゃないかなという話をしていますが、まだ外野にも飛んでないんですね。

塩見:そうですね。というCBCの角上アナウンサーからのレポートが入りました。

1-8A-1 47 3:29:20~3:29:35 8A

小松:(略)このカブレラってね。あんまり穴がね、ないですよ

久野:落合監督もね、なかなか欠点が見づらいついていうね、そんな発言もありました。

小松:ま、しいていえばインサイドの速い球でしょうかね。

久野:はい。

2-2A-1 15 1:06:57~1:07:10

森脇:ただあのう、斎藤さん。こういうね、山本昌みたいな、こういうボールを投げるピッチャーがいるかという、い

ませんのでね。パシフィックね。

斎藤:そうですね。

森脇:ええ。

斎藤:あのう、やはり、一番打ちづらいつと思いますね。

森脇:はい。

2-5A-3 28 2:04:54~2:05:08 5A

森脇:金村さん、またスタジアムのムードが変わっちゃいました

ね。金村:そうですね。西武の攻撃のときは静かに聞こえるんですよ。また中日の攻撃のときは本当に聞きづらいつんですよ。それぐらいね、ものすごい熱気なんですよ。

森脇:はい。

2-6A-1 36 2:40:11~2:40:47 6A

森脇:少一し、体が流れましたか。この守備についてもちょっと

と宮本さんに伺ってみましょうか。ちょっと難しいあたりになりましたかね。宮本:いや、あのう、まあ、いいボールが行けばですね、先ほども言ったように、まあ、センター方向に少し進んでますので、ショートから入ってくる勢いがそのまま出(に)、づらくなりますので、いまのスムーズに行ってもぎりぎりセーフかもしれないですけども、井端くんとでこの映像見たらわかると思うんですけども、自分の力が外に逃げちゃってるんで

森脇:ああ、なるほど。

宮本:もって行かないですね。

森脇:体が開くと…。

宮本:手だけで投げると言う形。まあ、(井端が)ちょっと不服
そんな顔して…。(一同笑い)ここに投げてきてくれたら
いいのに…

3-1B-1 7 0:31:48~0:32:03 1B

中山:栗山さん、バッターから見ますと、このドミンゴというの
もなかなか捉えづらいつピッチャーだと思うんですが
…。

栗山:いやほんとにね、なかなかね、日本のピッチャーのなかでね、こういう、あの感じで投げってくるピッチャーいないですよ。(後略)

3-3A-2 13 0:55:31~0:55:45 3A

東尾:非常にあのう、スライダーかパームのね、同じ軌道で来
ますから、

中山:分かりづらいつですよ。

東尾:ええ、ほとんど同じ軌道で来ますから、まあ、見てる人
つてのは黄色のとこつてのはフォークの感じでいいん
じゃないですか。

3-3A-5 14 0:58:59~0:59:27 3A

中山:一回動かして、そのあと、見てきました、仰木さん。

仰木:あ、うん、ヒットエンドランチャンスだったですけども
ね、えーやつぱり、あ、帆足のコントロールがですね、
先頭打者、今のショートエラーとですね、えー、ワンス
リー、ツースリーですからね、ちょっとやつぱりコント
ロールが不安になって来つつある、まあ、そういうやつ
ぱりウェイティングでしょうね、ウェイティングというか
ね、かけづらかつたんでしょね。ヒットの…。

中山:ええ。

3-3A-6 14 1:01:23~1:01:38 3A

東尾:それと、ほんとのこう、ランナーいないときのセットポジ
ション投げるんですけど、ランナーいるときに若干、誰
でも力みますよね。でもやはりボールが散らばるけど、
まあ、フォアボールを出さないというか、出しづらくな
つて来ましたよね。

中山:はい。

東尾:そういうところが、一番いいところですよ。

3-4B-1 19 1:23:51~1:24:07 4B

中山:ランナーを出してセットになって、1球、2球のドミンゴを
見ますと、ボールが高めに来ている。

東尾:ええ。

中山:このあたりも踏まえて、バントをするのかどうかというの
を赤田が見極められるかどうかですよ。

東尾:普通はバントしますが、こう高めに来るとバッターもし
づらいつ、

中山:はい。

東尾:非常に厄介ですよ。

3-7B-1 51 3:45:17~3:45:56

中山:仰木さん。落合監督の今の心境を語ってください。

仰木:そうですねえ。まあ、岡本にすべて託したと、いう形に
なったわけですけども、やつぱり、一度ならず二度、
代えたいなあという気持ちはあったと思いますね。

中山: ええ。

仰木: 左の、ピッチャーがマウンドに行きかけ、(はい)平井がマウンドに行きかけ、二度ですからね。ええ、ええ。まあ、それとですね。もっと先を言うなら、ほんとに力尽きたという形ですけど、これで明日、あさってと、岡本ちよと投げづらくなりましたからね。

中山: まだまだゲームはねえ、

3-8A-1 55 4:03:47~4:04:13 8A

中山: ここは栗山さん、ランナーがなくなって、2番の井端というケース。井端の頭の中には小野寺に対してどのように向かって行こうということになるんですか。

栗山: あのう、基本的には「本当にフォーク切れるんでね、早めのカウントでまっすぐをきちと打って、ということはあとボール球を振らないということなんです、西武とするとね、やっぱりあのう、(中日の)岡本で逆につかいつらくなったように、このね、小野寺だけは、ピシヤツと行ってほしいというね、ものすごく願っていると思いますよ。

4-4B-2 29 2:07:08~2:07:30 4B

中山: それと今、まあ久しぶりにけん制球を送りましたが、山井は立ち上がりランナーを、まあ守備のミスから出したランナーを自分のけん制で、上手さというところで刺すというシーンもありました。

大塚: 中山さん、そこがですね、今ライオンズのね、ファーストベースに来るランナーがね、一歩目のスタートが非常に切りづらい状態になってますね。

中山: ああ、そうですね。

4-5A-1 32 2:22:18~2:22:33 5A

村田: でも、このまっすぐ二つを見ると谷繁くんは、変化球を待てるような気がしますね。

中山: まったくストレートには反応しませんでしたか。

村田: はい。

中山: そうしたらこれ、変化球は投げづらいんですか。

村田: あ、ここからもう一球まっすぐ来ますね。

中山: まっすぐ。

村田: はい。

4-7B-1 46 3:22:37~3:23:00

中山: 東尾さん。

東尾: はい。

中山: 先発の山井は降りましたが、両ピッチャーも先発はいませんが、継投を考えていった中で、まあ、点差はありますけども、4つ勝つ中で、継投いかに中継ぎピッチャーを日本シリーズで使いづらくするかというのも大事になってきますから、西武としてはこの落合に対してどういう攻めをするか大事になってきますよね。

4-7B-2 46 3:23:15~3:23:23

中山: 西武が逆にこう、出てくるピッチャー出てくるピッチャーが、なかなか東尾監督がベンチにいて日本シリーズ臨んでいるにしても、使いづらくなりますかね、この後ねー。

5-1A-1 6 0:25:48~0:26:00 1A

松下: しかも牛島さん、カウントがワンスリーになりましたね。

牛島: そうですねえ。まあ、1エンド2で、速い球行きづらいケースでね、チェンジアップ行ったんですけど、そこを狙ってきましてね、中日の方が。

5-4A-1 19 1:21:40~1:21:49 4A

衣笠: あまりスライダー系のボールは得意ではないんですよ。

松下: したがって、ここは、アレックスも、スタートは切りづらいですかね。

衣笠: と思いますけどね。

5-8B-1・5-8B-2 46 3:16:31~3:16:51 8B

松下: さすがに、牛島さん、ここは変化球は投げづらいですかね。

牛島: うん、まあそうですね。でもね、あのう、ボールスリーから始まったやつですからね。考え方によったら、よしこれでまっすぐまっすぐで行けばいいという思いはあるんですけど、ただ、遅れてファールしてますから。変化球投げづらいですよ。

6-2A-1 12 0:52:36~0:52:50 2A

斎藤: ピッチャーにはよく投げづらいというが、ちょっと松坂に対しては、「バッター松坂」を警戒か。

平松: そらあ、芯でとらえたら、あのう、ホームランありますからね。(はい)そのくらいの鋭い振りをしていますから。

6-6B-2 41 2:59:19~2:59:28 6B

平松: まだこれ、松坂にとって、ここはもう、敵地ですから。この声援ってのはものすごく投げづらいんですよ。

斎藤: なるほど。

平松: はい。

7-3A-1 19 1:24:33~1:24:39 3A

(ドラゴンズ山井について)

彦野: やっぱりずいぶん、あのう、スピード差もありますし、落差もありますからね、打ちづらいですよ。

水分: ええ。

がたい

3-9B-2 62 4:34:37~4:35:07 9B

古舘: 栗さん。栗さん今、画面にボーンと映りましたけど、栗さんこれでね、3戦を制したものが日本一というきのこの報道ステーションの読みからして、どうでしょう、あした以降。

栗山: まあその、一度言ったんで、それを信じていきたいんですけど、ただ今日の試合どおりに、ほんとに何が起こるか分からないですよ。中日投手陣が7回に2点リードしていて、それを逃げ切れないというのは、想像しがたかったんで、ほんとにこの先何が起こるか分からない戦いになるとは思いますけど、今日の勝利はものすごく大きいと思います。

やすい

1-8A-2 47 3:29:53~3:30:07 8A

(カブレラの打撃フォームについて)

田淵:ま、さきほども言っただけど、イチロー君がね、やっぱり、あれだけ打つていうのは、この、同じようなね、バットの構えをしてんですよ。出やすいという。

久野:ええ。さあ、強い当たり。三遊間を抜けていきました。レフト前のヒット。

2-7B-2 42 3:03:24~3:03:50 7B

森脇:このコンパクトさ。ひとつ、どうなんでしょうね谷沢さん。谷沢:アノー今ね。この、バッテリーがね、味のあるね、投球を5回6回と見せてきてるんですよ。むしろその味のある投球・配球がね、中日にとってはチャンスなんですよ。

森脇:ほおー、はい。

谷沢:読みやすいようなね、形になってきてますからね。はい。

森脇:なるほど、はい。

谷沢:付け入る隙はこのへんありますよ。

3-3A-4 14 0:58:02~0:58:29 3A

中山:やはり仰木さん。チャンスをくれた限りはそこについていかなければいけない。それも流れとしては大事になってくるでしょうね。

仰木:いやいや、もうね、え~ほんとに、じりよくってのは、地力ってのはね、なかなかそのう、ヒットがつながる、ホームランが出る、うー、ゲームの中では出てきますけど、やっぱりこう、ラッキーなね、走者、相手のミスってのはね、絶対つかなきやもう、損といえますか、えー、結びつきやすいですね。点にね。

中山:ええ。

3-3B-1 16 1:08:00~1:08:08 3B

東尾:あのードミゴのこのマウンド初めてと思うんだけど、

中山:はい。

東尾:気持ちよく投げやすそうに投げてるんですよ。

中山:ええ。

3-3B-2 3-3B-3 16 1:08:20~1:08:45 3B

東尾:なんかこう、見てる限りはね、まあ、比較的あの一、西武球場のね、マウンドは投げやすいんですよ。

中山:あ、そうなんですか。ピッチャーから考えると。

東尾:非常にあの一ねー、ね、特に低目への、コントロールしやすい、だいたい、こう、そういう評判なんですよ。だから非常に僕はその意味でも、非常にこう、気持ちよくスイスイ投げてるんですよ。

中山:ええ。

3-3B-3 16 1:09:09~1:09:23 3B

東尾:ドミゴはこれだけ、ストレートが低めにコントロールされているってのは、

中山:印象ないですか。

東尾:去年の横浜のときはね、何回か見てるんですけど、こ

んなに低めにコントロールされているのは、投げやすいのかなって気もするんですよ。マウンドが。

3-4B-2 22 1:38:17~1:38:24 4B

東尾:なんかこう、やはり、この回になって、捕まえられやすい状況ってのが出てきましたよね。

中山:ええ。

3-5A-1 25 1:48:15~1:48:38 5A

栗山:ただあのう、プレーオフからずっと

中山:デットボールです。

栗山:ね、デットボール出しましたけど、点を取られたあとの回とか、それからピッチャーが変わったときって、必ず先頭を出しやすいパターンがあったのが、ただ、すごく帆足がね、あのう、気をつけすぎずにね、なんていうんですかね、東尾さん、非常に上手く、この回ワンアウト取りましたよね。

3-5B-1 27 2:02:20~2:02:35 5B

仰木:ですから、まあ、そういう意味では非常に、えー、4点というのは伊東監督にとっては大きい、やりやすい、考えると選択肢がたくさん出てきたと思うんですよ。

3-5B-2 28 2:03:09~2:03:36 5B

中山:これ、1年間の間に仰木さん、監督が何もしてないで勝てる試合って、何試合ぐらいあるんですか。

仰木:いやあ、そんなにね、その、何試合ということではできないと思うんですけどね、やっぱりいろんな意味で、そういうその、選手がいかにやりやすく、まあ、どんどん、行ってくれるか、まあ、舞台づくりというか、

中山:ええ、ええ、ええ。

仰木:まあ、それまではねえ、難しいですけどね。

3-6A-1 30 2:13:41~2:13:52 6A

中山:ですから脇を固める、逆にいえば、本来であれば粘り強い選手の方が帆足は抑えやすくて、こういう長打力のある選手の方が、帆足は怖い。

3-6A-2 34 2:30:31~2:30:42 6A

仰木:そうですねえ。あー、どちらも、やっぱりこう、追える範囲のね、追いやすい失点をどう防ぐかですね。これからはね。

中山:はい。

3-7A-1 40 2:58:39~2:58:49 7A

中山:初球に決められてしまいましたしね。

東尾:やっぱりこういうとき、イケイケと逆転でいっぺんに5点取ったらね、そらイケイケって監督のサインはなんでも動かしやすいんですよ。

中山:ええ、ええ、ええ。

3-7A-2 43 3:08:26~3:08:49 7A

東尾:まあ、だからあのう大沼とすれば、さっきの頭脳差を使って、このアレックスってのは積極的にこう振ってくるバッターですから、低めに変化球さえほうっておけばね、振ってくれる可能性がありますから。

中山:はい。

東尾: 意外とストライクゾーン広いから投げやすいんですよ。
中山: あ、そう思えばいいんですね。
東尾: 今度の場合はインサイド使いやすいし、カウント有利になれば、インサイド使いやすいですよ。

4-1A-1 7 0:29:17~0:29:30 1A

東尾: あのを、まあ、サードにランナーやりたくないってのは、インサイド高め行ってるけど、インサイド高めてのは、(バントが) ややしやすいんですよ。

中山: そうなんですか。

4-1A-2 7 0:29:46~0:29:54 1A

中山: ただ、そのボールではなく、インサイド高めのボール、井端にとっては細工のしやすいボールでバッテリーは攻めてきています。次が9球目。

4-3A-2 20 1:27:18~1:27:48 3A

中山: 宮本さん、この井端の倒れ方というのは、どう見ましたか。

宮本: これは、右に意識したのではなくてですね、今ほとんどにインハイにいいボール来ましたので、あわてて手出さなくてよかったなあ、という気はします。

中山: んー。

宮本: はい。

中山: あわてずに1球見ても、ワンツートというところでしたものね。

宮本: はい。そっからエンドラン、そこも見え見えになってしまうんですけども、あのを、まあ、監督が動きやすいといいますが、動けるカウントにはなりませんけど、はい。

4-4B-1 29 2:06:45~2:07:01 4B

中山: 2アウトツースリーは1塁ランナー自動スタートになりますけれど、1アウトツースリーでもスタート切らせましたね。栗山さん。

栗山: そうですねえ。あのを、ゲッツーがいやなんだと思いますけど、またあのを、ランナースターと切らせると、バッターってボール気味に手を出しやすくなるし、この辺が難しいですね。

中山: 今、見逃せばっていうところもありました。

5-1A-2 6 0:26:11~0:26:30 1A

松下: さきほど衣笠さんから内殿筋の話がありましたが、牛島さん、この内殿筋というのは厄介なもので、調子がいいたときに、ピリッて来るらしいですね。

牛島: ああ、まあ、体がしっかり使えて、体重移動して、粘るじゃないですか。そういうときにピッチャー調子がいいですから、まあ、そういうときに痛めやすい箇所ではありませんね。

5-6B-1 29 2:07:02~2:07:14 6B

松下: どちらかというと、この中島は、衣笠さん、ローボールが好きだと思いますけどね。

衣笠: そうですね。パツと高いところへ構えてますから、高目よりは低めの方が出やすいですよ、バットが。

5-7A-2 38 2:47:33~2:47:40 7A

牛島: まあ、でもランナーいけませんからね、まだね。ホームラン打たれてもまだ1点だっていう部分では、攻めやすいのは間違いないですね。

6-1A-1 9 0:36:32~0:36:51 1A

平松: それと、平尾はね、あまりやってないんでね、対戦してないんで、(ええ)その、いわゆるまあ、長所なんかわかりませんが、(ええ)次の中島がねえ、この前の対戦で二三振取ってるんですよ。ひょっとしたらやりやすく、(平尾を)歩かせてもいいやって考えがあるかもわかりませんね。

斎藤: なるほど。

6-7A-1 44 3:15:27~3:15:51 7A

斎藤: さあ、クリーンナップの前に、得点圏のランナー、西武としては、大矢さん、非常にいい形で、1、2番がチャンスを作り上げました。

大矢: そうですね。この形のチャンスがね、一番得点につながりやすいですよ。ここがバスターやらずに、あのもうきちんとした形で、クリーンナップにまわす方が、得点できると思うんですよ。

6-9B-1 59 4:21:45~4:22:03 9B

斎藤: フォークボール。今のはウイニングショットであったフォークを、平松さん、

平松: 今のボールはね、ストライクからストライクに入りますから、

斎藤: あー、ちょっと甘かったということですか。

平松: ええ、そういうことでは、バッターはね、対処しやすいですけどもね。まあ、この土壇場でね、よく打ちましたよ。

斎藤: そういうことですね。